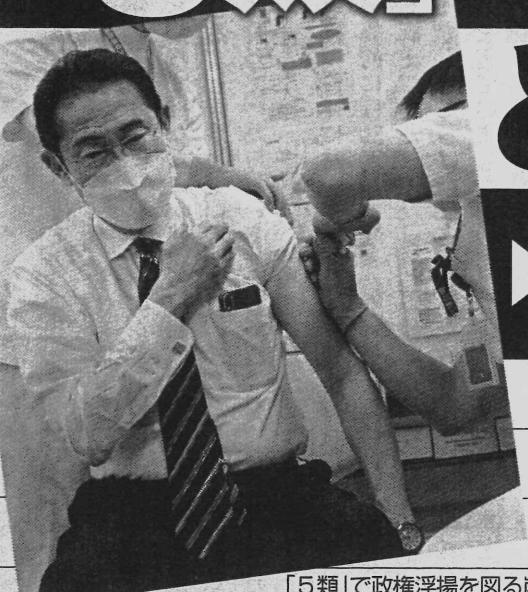


「5類」でも「コロナワクチン推進」という思考停止



「5類」で政権浮揚を図る岸田総理

特集

書入手! に滲む「迷い」と「ためらい」



剤服用でも40度超えは要注意 文で訴えた「臨床現場の異変」とは!? リットはいつまで続くのか

コロナの診察は「発熱外来」から「一般外来」へ

新型コロナウイルスに関する感染症法上の類型見直しをめぐる、「取扱注意」と書かれた「政府内部文書」が手元にある。そこには、見直し表明の時期について、(2023年A月)とあり、そつた(C月)に実際に類型変更を行う、とのスケジュ

ールが記されている。「類型見直しを表明すれば国民から大きな注目を集めることは間違ひありません。」(政府関係者)しかし、支持率低迷にあらゆる背景には、それを不発続きの政権を浮揚させる「切り札」として最も有効

なタイミングで使いたい、という総理の思惑が透けて見えます」(政府関係者)。しかし、支持率低迷にあらゆる背景には、それを不発続きの政権を浮揚させる「切り札」として最も有効

なタイミングで使いたい、きなのにその責任を専門家に委譲しているわけです。専門家の側も、政治が決めた方向と違う判断をしても却下されるので、正当化するための証拠を提供するだけになります。両者が責任を押し付け合う形になつており、問題だと思います」

移行時期としては4月1日と5月1日の2案が浮上しているという。引き下げ月20日、早くもそのカードを切つてきたのだ。

23.2.2

【取扱注意】の政府内部文 〈WHOの接種方針が…〉

- ▶ 専門家が警鐘! 接種後「解熱」
- ▶ 第一線の心臓血管外科医が論
- ▶ ワクチンで「自然免疫抑制」デメ

現在、新型コロナは1～5類まである感染症法上の分類とは別枠の「新型インフルエンザ等」の一つとして「2類相当」で対応されている。岸田総理はそれを季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げる方針を表明。その方向で「専門家に議論してもらう」と述べたのだ。

「5類引き下げの判断は過ぎるぐらいだと思いますが、総理が方向を決めた上で、専門家に議論してもらう」と表明したことには疑問を感じます」

『ワクチンの境界—権力と倫理の力学』(アーメージング出版)の著者で神戸大学大学院経営学研究科教授の國部克彦氏はそう話す。

ナンセンス

22頁のグラフにある通り、我が国の人口100人あたりのコロナワクチン追加接種回数は断トツで世界1位。にもかかわらず、新規感染者数も昨年11月から10週連続で世界最多を記録した。ワクチンの感染予防効果に疑問の声が上がるのは当然で、それを無視するのは思考停止に他ならない。

また、3回目のワクチン接種率と同じペースで「例年より増えた死亡者数」を示す超過死亡が増え、海外ではワクチンの「影」の部分に焦点を当てた報告や報道が相次いでいる。高齢者における重症予防効果といふ「光」の部分は残されていにせよ、一旦、立ち止まつて検証する時期に来てるのは間違ひなかろう。

何しろ、ウイルス学の世界的権威であるポール・オフィット氏までもが追加接種について「負けゲーム」と表現し始めているのだ。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを「2類相当」から「5類」に引き下げる方針を表明した岸田文雄総理。これ自体は妥当な判断だが、引き下げ後もワクチンの接種推進は継続するという。ワクチンへの疑義の声は「聞く力」の持ち主に届いていないのか。

「5類移行後はコロナの患者さんを発熱外来ではなく一般外来で診察することに濃厚接触者への外出自粛要請は出せなくなる。長年、小児がんの研究、治療に携わってきた名古屋大学名誉教授の小島勢二氏はこう語る。

「5類移行後はコロナの患者さんを発熱外来ではなく一般外来で診察することに濃厚接触者への外出自粛要請は出せなくなる。長年、小児がんの研究、治療に携わってきた名古屋大学名誉教授の小島勢二氏はこう語る。

と語った岸田総理。本誌が入手した「政府内部文書」にもこうある。

「引き続きワクチン接種を一定程度継続する必要がある」と考えられる

その一方、『なお、現時点では、以下の状況であることに留意が施す』と語った岸田総理。本誌が入手した「政府内部文書」にもこうある。

「引き続きワクチン接種を一定程度継続する必要がある」と考えられる

その後の死亡例は2022年12月18日までで1966件。厚労省が因果関係を認めた例はなく、ほとんどのケトスが「○(評価不能)」とされている。21年10月30日、モデルナ製ワクチンの2回目接種の約13時間後に亡くなつた山下香さん(仮名)。当時23歳のケースもその中に含まれている。

山下さんの母親が当時の状況を振り返る。「亡くなつたのは、男3人女2人の5人きょうだいの末の娘です。前職は接客業で、ワクチンを打つた時はだいはすでに独立したり嫁いだりしており、当時は私と娘、それに私の母親の3人で暮らしていました。私の夫、つまり娘の父親は脳出血とがんを患い、病院に入院中でした」

2回目接種の際、山下さんは交際相手と一緒に車で接種会場に行つたという。その日の夕方、私が娘に電話した時はいつもと変わらない声で「これからご飯

医療機関やワクチン製造販売業者から国に報告されたり、国内でのワクチン接種

なり、待合室で病気を拾う可能性が高くなることは否めません。が、多くの医療機関、とりわけ小児科では、コロナが流行する前からインフルエンザを含む伝染力が強い感染症に対しても、患者さんを別の待合室に隔離するなどの対策を講じていますので、対応は困難ではないと思います」

5類引き下げ後のワクチン接種については、「予防接種法に基づいて実施する」と語った岸田総理。本誌が入手した「政府内部文書」にもこうある。

「引き続きワクチン接種を一定程度継続する必要がある」と考えられる

娘は今日、車のタイヤ交換を行っている、とか理由をつけてごまかしていました。でも、娘の四十九日の法要の頃に面会に行くと、夫が聞くのです。“誰か亡くなつたか？”と聞いたら、毎晩のように娘が夢に出てくると言うのです。それで私は隠せなくなつた。娘が亡くなつたことを聞いたら、毎晩のように娘が夢に出てくると言つた。すると夫は、“ワクチンが原因で亡くなつたのかはつきりさせろ。何も分からぬいのではかわいそだ”と言つたといふ。

「それが夫と話ができるいた頃の最後の会話になりました。娘が亡くなつた2ヵ月後、夫も亡くなりました。ワクチンのことをはつきりさせないと、私は娘や夫に顔向けできません」

娘の無念を晴らし、夫の願いを叶えるための戦いが一筋縄ではない。目下、コロナワクチンに対する疑念の声は、燎原のごとく

廣島大学の長尾正崇教授（法医学）らのチームは、コロナワクチンを2回接種の頃に面会に行くと、夫が聞くのです。“なんですか？”と聞いたら、毎晩のように娘が夢に出てくると言つた。それではかわいそだ”と

原因で亡くなつたのかはつきりさせろ。何も分からぬいのではかわいそだ”と

言つたといふ。

「それが夫と話ができるいた頃の最後の会話になりました。娘が亡くなつた2ヵ月後、夫も亡くなりました。ワクチンのことをはつきりさせないと、私は娘や夫に顔向けできません」

娘の無念を晴らし、夫の

願いを叶えるための戦いが一筋縄ではない。目下、コロナワクチンに対する疑

念の声は、燎原のごとく

薬を数週間投与してもコン

追加接種は中止すべき

娘は今日、車のタイヤ交換を行っている、とか理由をつけてごまかしていました。でも、娘の四十九日の法要の頃に面会に行くと、夫が聞くのです。“誰か亡くなつたか？”と

聞いたら、毎晩のように娘が夢に出てくると言つた。それではかわいそだ”と

原因で亡くなつたのかはつきりさせろ。何も分からぬいのではかわいそだ”と

言つたといふ。

「それが夫と話ができるいた頃の最後の会話になりました。娘が亡くなつた2ヵ月後、夫も亡くなりました。ワクチンのことをはつきりさせないと、私は娘や夫に顔向けできません」

娘の無念を晴らし、夫の

願いを叶えるための戦いが一筋縄ではない。目下、コロナワクチンに対する疑

念の声は、燎原のごとく

薬を数週間投与してもコン

トロールできなかつた。患者には免疫不全の徴候が見られ、少數の死亡例もあつた。（中略）当施設では、ワクチン接種開始以降に4例のH-I-T（ヘパリン起因性血小板減少症）抗体陽性例が確認されているが、過去にこの頻度でH-I-T抗体陽性例がみられた例はまれ

に記載し、その影響を念頭

に治療にあたるべきだと提

言っています。安定してい

た病気が急に悪化した場合

や健常な人が急に病気にな

つた場合、すべからくワク

チン接種の影響を考慮すべ

く時代にすでに突入してい

るのです」

我が国では国民の8割が

ワクチン接種によつて体内

で産生されるスパイクタン

ぱく質が炎症を引き起こす

ことや、コロナの武漢株へ

の抗体が一度できてしま

うと、それ以後も主に武漢株

に対する抗体を產生してし

まう抗原原罪が起こる可能

性についてなど、これまで

私が述べてきた懸念がき

れています。自然免疫が抑制されると

いうのは、もはや体質が変

わつてしまつてゐると言つ

ても過言ではない状態。免

疫が関係するがんのよう

な免疫が抑制される可能性

にも触れ、実際に自身の病

院で心臓手術をした患者さ

んが術後、感染症にかかる

て亡くなつてしまつた、と

記しています」

さらに、

「ワクチンの追加接種中止

否かは個人の判断。自分の

頭で考え、自らや家族が進

むべき道を選択するための

材料は出そろいつつある。

食べるから」と。その後、

自宅まで帰つて来る時、あ

と30分くらいで家に着くと

いうところで、なんだか腕

が痺れる」と同乗していた

彼氏に言つていたらしいで

す」

帰宅後、徐々に熱が上がり

り、最終的には39度に。吐

き気も訴えていた。

「それでも私たちは副反応

を軽く考えていましたから、

を軽く考えていましたから、